

中部支部巡検会報告：  
静岡市葵区門屋・牛妻地区の十枚山構造線を追う

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-03-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 青木, 克顕 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.14945/00024829">https://doi.org/10.14945/00024829</a>

# 中部支部巡検会報告

## —静岡市葵区門屋・牛妻地区の十枚山構造線を追う—

青木克顕

### 1. はじめに

中部支部では、枕状溶岩の調査に続き、平成17年から糸魚川—静岡構造線と十枚山構造線の調査を開始した。平成18年1月9日(月)、長島 昭会員と井出志津夫会員の案内で、瀬戸川層群と竜爪層群の境界といわれる十枚山構造線を求め、門屋と牛妻地区の調査を行った。以下に報告する。

### 2. 露頭1：門屋宝寿院奥の沢

勝海舟の由縁の地として知られる宝寿院の奥の沢を登ること200 m、沢は二手に分かれる。東側の沢をさらに上ると、小さな滝がありこの中央部に左横ずれ断層の面が見られる。方向はN30°E、傾斜75°W (図1-①)。当初これが十枚山構造線の露頭と予想していたが、調査の結果、左右とも粗面岩であることが分かった。西側の沢には、断層の影響を受けたと思われる粘土層が見られる (図2, 図1-②)。粘土の上部は頁岩層である。層理面はNS68°W。この谷は、NSの方向に伸びている。

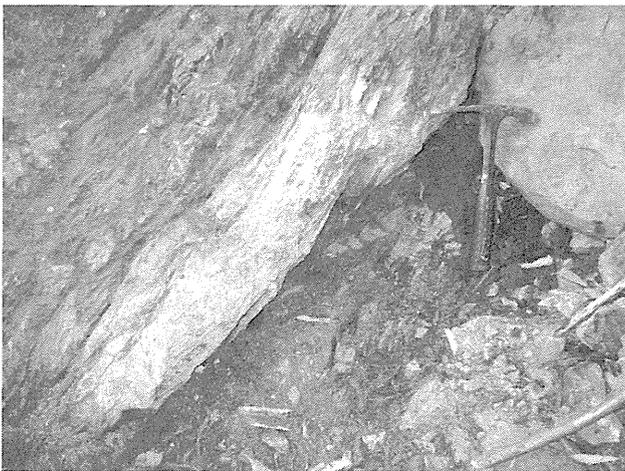


図2. 断層の影響と見られる粘土層 (ハンマーの柄の部分)。

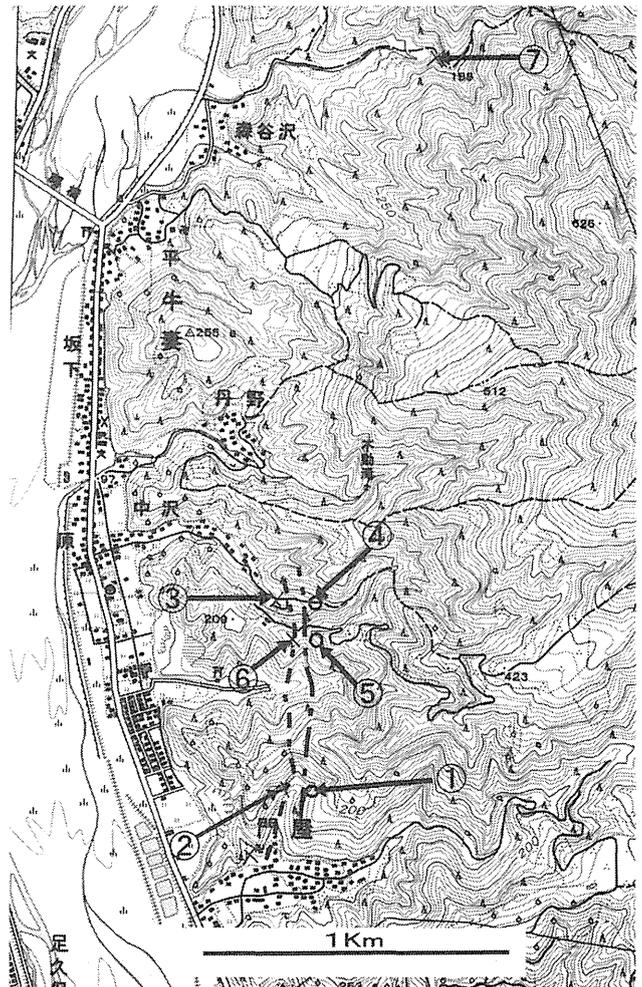


図1. 露頭一覧 (①~⑦) 2本の波線部の間を、十枚山構造線が走っていると推定した。

なお、宝寿院の山門を入ってすぐ西側の崖には、瀬戸川層群と見られる砂岩が露出している。

### 3. 露頭2：牛妻中沢㊦

牛妻郵便局の北測を東に入り、中沢川の露頭を観察した。ヘアピンカーブに入る手前の沢に、瀬戸川層群のものと思われる砂岩層が見られる。走向傾斜は、狭い範囲でばらつきが大きく、スリッケンサイトも多く観察されることから、断層運動の影響を強く受けていることが分かる。また、粗面岩や玄武岩の転石も多くあることから、近くに竜爪層群との境界があることが分かる（図1-③）。

### 4. 露頭3：牛妻中沢㊧

ヘアピンカーブの奥に、モトクロス用のコースがある。その脇の東に延びる沢を調べたところ、大きな玄武岩の岩体であった。明らかに転石ではない（図1-④）。

### 5. 露頭4：中沢牛小屋の横

露頭3より坂を上り、牛小屋の横の崖を見ると、風化した玄武岩と見られる岩体がある。一見頁岩のようであるが、針状の鉱物が確認できたため、玄武岩ではないかと考えた（図1-⑤）。なお、この崖の反対側の林に通じる道には、スリッケンサイトの見られる転石が数多く見られる（図1-⑥）。

### 6. 露頭5：森谷沢奥の滝

新しくできた大きな砂防ダムの奥の沢を進むと大きな滝がある。砂防ダムから奥の左右の崖には頁岩が露出しており、この滝の崖が火成岩体であれば、瀬戸川層群との境界かと期待を持たせたが、結果は大変に硬い頁岩であった。高さは約十数m、滝の崖の走向傾斜はN20°E, 80°Wである（図3, 図1-⑦）。



図3. 森谷沢奥の滝を形成する岩体（頁岩）。

### 7. おわりに

以上の結果から、今回の調査では、瀬戸川層群と竜爪層群の境界面を明らかにすることはできなかったが、およその範囲は推定できた（図1）。図1に○印で示した所は、竜爪層群の露頭（①, ④, ⑤）を示しており、×印で示した所は瀬戸川層群の露頭（②, ③, ⑥, ⑦）と推定される。したがって、十枚山構造線は図1で示した波線の間と推定できる。

今後さらに、北方の調査を進めていきたい。

### 参加者

長島, 井出, 松本, 久保田, 佐々木, 寺田, 青木（7名）。